

十勝農業協同組合連合会（十勝農協連、山本勝博会長）は、新十勝農協連ビルの建設と、帯広厚生病院跡地の活用策について検討を始める。同会の第8次中期計画（2017～21年度）に盛り込んだ。帯広市西3南7の現ビルは築48年たち老朽化。厚生病院が移転した後の土地は同会が取得することが決まっている。中心市街地の主要施設、土地の利活用だけに、その行方に注目が集まりそうだ。



築48年たち新ビル建設の検討が始まる農協連ビル



同会は5年ごとに中期計画を策定しており、第8次は6日の臨時総会で承認された。21年度までの事業推進事項として、新農協連ビルの建設と厚生病院跡地の活用方法について検討を始める方針を初めて明記した。

現在の農協連ビルは1969年7月に完成した。敷地面積約3200平方メートルに、地上5階、地下1階建てで延べ5445平方メートルのビルが建っている。

同会やJA道中央会帯広支所、ホクレン帯広支所、J

A道信連帯広支所、農協観光帯広支店など農業関連団体が入り、5階には約300平方メートルの大会議室がある。中心市街地では建築年が古いビルの一つで、敷地内の駐車場もビルの規模からは手狭だった。

中期計画に盛り込んだことについて、同会は「築40年以上がたっていて、5年間の中で検討を始めようとする段階。具体的なことはこれからで、来年、再来年に決まる話ではない」としている。

厚生病院は、同会が所有する帯広競馬場南側（西14南9）に移転し、18年10月の開業予定。運営するJA道厚生連と同会は12年、更地にした病院跡地と競馬場南側の土地を、等価交換することで合意している。病院跡地は3ヘクタールあり、同会は移転後の活用策を検討する。

所有する施設と土地の検討が近い時期に始まることから、同会の関係者は「現在地にビルを建て替えないといけないことはなく、いろいろな可能性がある。厚生病院跡地ともリンクして考えることになるのではないか」とする。

山本会長は「ビルは来館者の不便さもある。検討を始めれば早く結論を出したい」と話す。

中心市街地では、建設中の帯広第2合同庁舎（西4南8）に、帯広開発建設部と帯広財務事務所、帯広税務署が集約される。旧イトーヨーカドービルや経済センタービルなどの再開発計画も進んでいる。

【幕別】JAさつない（高橋秀樹組合長、正組合員183人）は、本部事務所（札内中央町467）の建て替えを計画している。建設場所は現事務所の東側隣接地が候補となっており、2019年完成を目指し、今後内部で詳細な検討を進める。



JAさつないが建て替えを計画している現本部事務所

19日の総会で決定した17～21年度の「第8次中長期農業振興計画農協運営計画」に盛り込んだ。

現事務所は鉄筋コンクリート造り2階建て1133平方メートル。1963年度に建設され、老朽化が進んでいる。

隣接地候補に計画

建設場所の候補となっているのは、現事務所東側の駐車場などがある場所。敷地内の生産資材店舗を解体し、これに代わる農薬庫と合わせて建て替える案が出ている。

新事務所は2階建てで、規模は現事務所と同程度、農薬庫を合わせるとやや広がる。JAさつないは「詳細は今後内部で協議するが、で